

「平成27年度全国学力・学習状況調査」の結果について

1 はじめに

長洲町教育委員会では、長洲町の児童生徒の学力や学習状況がどのような状態にあるのかを把握し、指導の改善等に生かすために「全国学力・学習状況調査」を活用しています。

今回の調査結果を、全国や県及びこれまでの調査結果と比較することにより、教育施策の成果と課題が見えてきました。この結果を町民の皆様と共有することにより、長洲町の児童生徒の「確かな学力」の向上に取り組んでいきたいと思えます。

なお、今回の調査で得られた結果は、児童生徒の「学力の一部」であることから、今後様々な検証を行い、さらなる指導の改善に努めるとともに教育行政の施策に役立てていきます。

2 調査の概要

○調査対象 小学校6年生 中学校3年生

(1) 教科に関する調査 (国語、算数・数学、理科)

・A:「主として知識に関する問題」

身に付けておかなければならない内容や、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などに関わる問題

・B:「主として活用に関する問題」

知識・技能を活用する力や、課題解決のため構想を立て実践し、評価・改善する力に関わる問題

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習習慣、学習環境、生活の諸側面に関する調査

3 調査結果の概況

(1) 教科に関する調査

①国語

	小6・国語A知識	小6・国語B活用	中3・国語A知識	中3・国語B活用
全国平均正答率	70.0	65.4	75.8	65.8
県平均正答率	70.2	64.0	75.2	66.2
町平均正答率	69.9	63.2	72.6	65.3

②算数・数学

	小6・算数A知識	小6・算数B活用	中3・数学A知識	中3・数学B活用
全国平均正答率	75.2	45.0	64.4	41.6
県平均正答率	75.5	45.6	64.0	41.6
町平均正答率	77.1	47.5	57.8	39.1

③理科

	小6・理科	中3・理科
全国平均正答率	60.8	53.0
県平均正答率	62.6	54.4
町平均正答率	61.5	49.2

【分析と対策】

- ・小学校の国語A知識は全国及び県の平均とほぼ同である。
 - ・小学校の国語B活用は全国及び県の平均と比べるとやや低く対策が必要である。
 - ・小学校の算数は全国及び県の平均値を上回り、良好である。
 - ・小学校の理科は全国の平均値を上回っているが県の平均値より低く対策が必要である。
 - ・中学校の国語B活用は全国及び県の平均とほぼ同じであったが、他の国語・数学・理科は下回る結果となり、対策が必要である。
- *個人格差が見受けられるので、一人一人の児童生徒の実態に合った教育指導ができるように、きめ細かな指導や助言が必要である。
- *長洲町学力向上対策委員会において、実態把握と対策について検討を重ね、学力向上のための取組を推進していきたい。

(2) 生活に関する調査

生活習慣は学習の結果に大きな影響を与えます。それぞれの学校からの生活に関する調査の結果をご覧ください、家庭でできる改善点があれば改善をお願いします。

【長洲町の児童生徒の生活に関する特徴的な内容】

- ◎地域の行事に参加している割合は高く、ふるさとを愛する気持ちの育成につながっていると考えられます。
- ◎小学生では家庭での学習の時間が少ない。家での予習の時間が少ない。などの問題があります。学校と連携して対策を考えていきます。
- ◎中学生も家での予習の時間が少ないことが分かりました。学校と連携しながら対策を考えていきます。
- ◎小学生は国語よりも算数の勉強が好きと答え、中学生は数学よりも国語が好きと答えている。この違いの理由について分析し対応を考えたい。
- ◎今回の調査の結果でも、携帯やスマホの使用時間が長いほど平均正答率は低くなっていることが指摘されています。町教育委員会が平成27年3月に実施したアンケート調査の結果を見ても、携帯やスマホの使用について危機感を感じており、学校や関係機関並びに家庭と連携してその対応策を考えていきます。
- ◎PTAと連携し、「早ね・早起き・朝ごはん運動」・「家庭学習の充実」などに取り組み、学力向上につなげていきます。

4 これからの取組について

各学校は「学力向上対策プラン」を作成し、そのプランに沿って学力向上を目指していますが、学校間格差がみられます。今後、学校間格差を解消するため、学力向上のための実践を行うように指導助言をしていきたい。また、長洲町学力向上対策委員会において策定した「学力向上のための3つのアクションプラン」の確実な推進を図り、PTAと連携しながら家庭学習の充実並びに学力向上を目指していきたい。

六栄小は熊本県教育委員会の「学力充実研究推進校」の研究発表会、腹赤小は玉名荒尾地区教育委員会連絡協議会指定の研究発表会を開催する年度であり、この発表会を、学力向上への弾みとしたい。